

生成 AI への期待と懸念

2024年6月14日

学長 田林 暁一

生成 AI が超スピードで進化している。画像生成 AI とチャット GPT が出現したのは 2020 年であり、それに至るまでの主な発展的出来事として、1956 年の計算機科学者ジョン・マッカーシーによる「人工知能」という言葉の初めての使用、2012 年、ジオフレイ・ヒントンらによるディープラーニングを用いた「画像認識のアルゴリズムの開発」がある。チャット GPT は大規模言語モデルを用いて、人が言語で質問や指示をすると文章や会話で回答する機能を有していて、その登場は蒸気機関車、電気、車、コンピューター、インターネット、スマホ等の登場に匹敵するとされている。生成 AI の使用に当たっては、教育施設における使用の是非、授業での利用の可否、教育効果の検討、使用上での不正行為、得られた結果の信憑性、著作権および意匠権上の問題、また、情報漏えいの危険性等について検討、または周知しておく必要がある。ただ、生成 AI の進化のスピードは速く、上記に関しても、進化のスピードに沿った対応が肝要である。最近の生成 AI に関する情報では、生成 AI の回答が間違っていたり、物足りなかつたりした時、「落ち着いて」、「段階的に考えよう」というと、回答の精度が上がったり、また良い答えが出たら、褒める操作を繰り返すと益々良い答えが増えてくるという報告があり、人の心を解するような反応を示し始めているようにも思われる。また、「GPT-4」の改良版として 2024 年 5 月に発表された「GPT-4o」はリアルタイムでの会話が可能になった。

今後、経済合理性の観点から世界で広く必要とされる能力が AI 化され、影響を受ける職種が種々あると思う。カールベネディクト・フレイらは 2013 年にコンピューター化に伴う職種への影響について検討し、レクリエーション療法士、心理士、作業療法士、ソーシャルワーカー、教師、医師、看護師等が影響を受けにくい上位の職種であると報告している。それらの職種に共通する点は生成 AI が人の心や感情を直接的に理解できない点を補う職種であることである。

今後の生成 AI に対する最大の期待は予測医療である。種々の病気の発症を発病前に知ることは、治療、治療後の回復、及び医療経済上の観点から大きな福音をもたらすと考えられる。また、この事は健康寿命と平均寿命の差を小さくする大きな力になるとも思われる。

一方、懸念していることは思考の外部委託で多くのことを生成 AI が考えてくれ、自分で考えなくても良い時代が現実化することである。